

# 1 調査経過

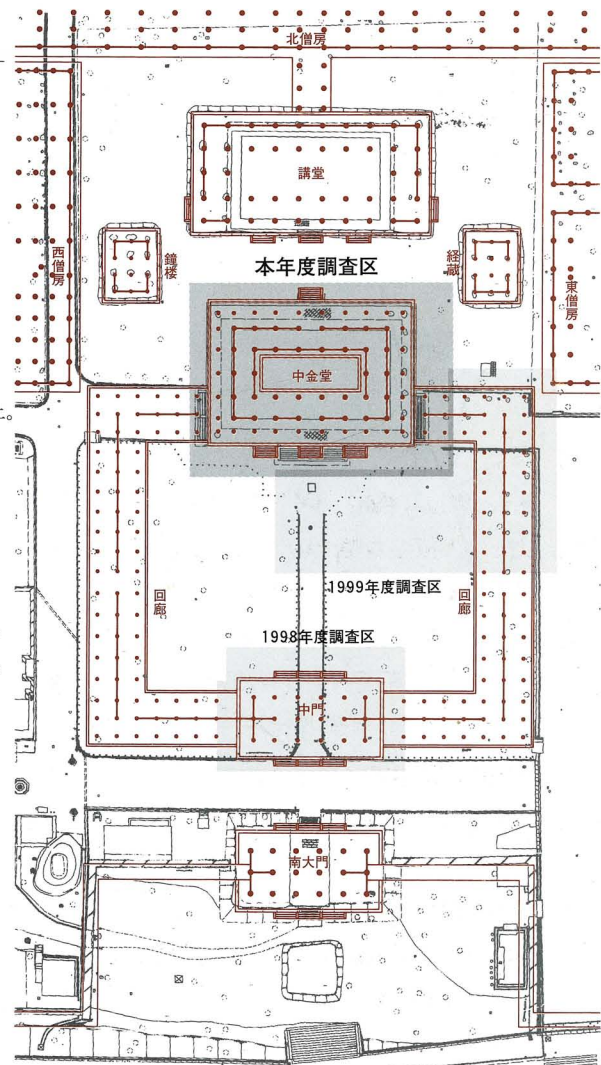
本調査は、平成10年度の中門、11年度の東面回廊等につき、興福寺第1期境内整備事業の第3・4年次にあたる。調査区は、中金堂基壇を中心とする東西51m・南北36m、調査面積は1836㎡である。調査区内には中金堂基壇・北面回廊・中金堂前庭部等が含まれる。

平成12年秋までは、中金堂基壇上には文政再建中金堂（通称「赤堂」）が建ち、礎石も残されていた。既往の研究では、これらの礎石や、興福寺の建物が古い形態を踏襲するという一般的傾向、絵画資料・近世の実測図等を元に建物の検討をしているが、礎石が原位置を保つ根拠は必ずしも十分ではなく、絵画資料も直接は創建期まで遡り得ない。今回の調査では、中金堂創建期の様相とその後の変遷の解明が重要な課題となった。また明治初頭に出土し、現在東京国立博物館・興福寺に分かれて蔵される国宝・興福寺中金堂鎮壇具は、当時の記録からは埋納形態等が判然とせず、この点についても知見を得ることが期待された。

赤堂は、平成12年5月～8月に解体された。12月には、調査員立会のもと階段踏石・基壇化粧等の取り外しが行われた。平成13年1月9日から発掘調査を開始し、10月3日に終了した。その後、火災で破損した礎石や凝灰岩への保存処理を行い、埋め戻しが完了したのは平成14年1月31日である。

第1表 調査経過

1月9日	調査区設定。表土除去。
1月15日	作業員による発掘作業開始。
3月12日	土坑S K8101より明治鎮壇具出土。
3月27日	土坑S K8102より大正鎮壇具出土。
3月28日	土坑S K8104より大正鎮壇具出土。 明治鎮壇具・大正鎮壇具2個をあける（貫首）。
4月19日	凝灰岩地覆石X X7975を検出。
4月23日	S B8100の花崗岩地覆石を外す（中造園）。
5月1日	須弥壇上の土坑S K8115精査・和同開珎出土。
5月17日	土坑S K8064検出・掘り下げ。焼けた飾り金具出土。
5月18日	土坑S K8060～8063、瓦暗渠S X8090検出。
6月13日	土坑S K8105より大正鎮壇具出土。
6月14日	調査成果についての記者発表。
6月17日	現地説明会。見学者約2000名。
6月22日	間柱柱穴S K7961～7964検出。
6月26日	土坑S K8103より大正鎮壇具出土。実測作業開始。
6月29日	礎石S X8120据付埋土上層より水晶玉・真珠出土。
7月5・9日	土坑S K8115より金延金出土。
7月12日	クレーンによる全景撮影。
7月18日	土坑S K8125より水晶玉出土。
7月19日	地上全景撮影。
7月25日	南北面階段掘り下げ開始。
7月27日	東面階段掘り下げ開始。
8月8日	基壇上断割開始。
8月30日	地上全景撮影。
9月3日	調査指導委員会。
9月12日	須弥壇断割開始。
9月19日	溝状遺構S X7994・7995検出。
10月3日	現場引き渡し。



第1図 発掘調査位置図（1：1500）